事例No.	3669
公表年度	R7
団体の属性	一般市
団体名	長野県飯田市

事例区分	第三セクター

タグ	・会社法法人 ・観光 ・教育・子育て

事例種類	観光DX・マーケティング

事例内容・タイトル

教育旅行におけるSDGsプログラムの展開

出典

地方自治研究機構　先進事例調査研究（令和7年度）

教育旅行における SDGs プログラムの展開

取組のあらまし

取組団体　南信州開発公社（長野県飯田市他）

取組内容　南信州観光公社では、学校教育における SDGs 学習ニーズの高まりを背景に、教育旅行向けの SDGs 体験プログラムを体系的に導入・整備し、SDGs の達成に向けた取り組みを強化している。

1　長野県飯田市の概要

人　　口	94,944 人	令和７年１月１日現在（住民基本台帳人口）
職 員 数	630 人	令和６年４月１日現在（一般行政部門）
総 面 積	658.66 ㎢	令和７年 10 月１日現在（国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」）

図表　1　飯田市位置図

出所：飯田市　ホームページ

2　取組の背景・目的

(1) 取組の背景と経緯

南信州観光公社は、体験型観光による地域振興を目的として平成 13 年 1 月に設立された第三セクター方式の法人である。飯田市や下伊那郡の 14 市町村（上伊那 1 村を含む）及び地元企業・団体が出資し、地域の自然・文化・産業・生活など「ほんもの体験プログラム」を提供・運営している。

中でも農家民泊は平成 10 年に延べ 450 軒の農家を受入れ先として全国で初めて開始され、第 1 回オーライ！ニッポン大賞最優秀賞や平成 19 年クールジャパンアワードを受賞する評価も得ている。教育旅行（主に修学旅行）では天竜川ラフティングや農家民泊を中心に年間延べ３万名以上を受け入れており、体験プログラムの種類も約 200 種類に及ぶ。こうした「感動体験南信州」の理念は、旅行者が地域住民とともに自然・生産活動・文化を体験する「ほんもの体験」を通じて交流を生み出すものであり、深い学びと感動を得られる観光スタイルとなっている。

(2) SDGs 達成に向けた経営方針と取組の全体構成

南信州観光公社の経営理念は「ほんもの体験」であり、旅行者が地域住民とともに自然・生産・文化活動を体験し、「自然の恵み」や「自然と共生する豊かさ」を実感することを重視している。この体験教育は、SDGs のゴール４「質の高い教育をみんなに：ターゲット 4.7」に該当する。

また、他地域に比べ著名な「観光名所」が少ないながらも、体験型観光における経済効果を生み出していることから、SDGs のゴール８「働きがいも経済成長も：ターゲット８．９（雇用創出、地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業）」に沿うものとしている。

さらに、SDGs のゴール 13「気候変動に基本的な対策を」、SDGs のゴール 15「陸の豊かさを守ろう」及び SDGs のゴール６「安全な水とトイレを世界中に」にも合致する食文化地産認証制度の創設・普及や新たな体験プログラムの普及・販売などを通じ、SDGs の達成に向けた取り組みを強化している。

図表　２　南信州観光公社における SDGs の取組

出所：南信州観光公社

3　取組内容

(1) SDGs プログラムの位置づけ

南信州観光公社では、学校教育における SDGs 学習ニーズの高まりを背景に、教育旅行向けの SDGs 体験プログラムを体系的に導入・整備している。新学習指導要領で重視される「主体的・対話的で深い学び」（探究学習）や ESD（持続可能な開発の教育）に対応するフィールドワーク型のプログラムを数多く用意し、学習支援者となるファシリテーターの養成に積極的に取り組んでいる。具体的には、令和３年度には地域資源を活用した SDGs 教育旅行プログラムの開発とファシリテーター育成を目的に研修会や全国発信フォーラムを実施し、農業分野など各市町村で展開可能なプログラムを含む 61 件の教育旅行プログラムを開発するとともに 16 名の人材育成を達成している。

また、公社の体験プログラム一覧において、「SDGs」は８分野のプログラムの中で、独立したカテゴリーとして設定されており、農家ホームステイや環境学習など他の分野と並び修学旅行や研修旅行に最適なプログラムとして位置づけられている。

(2) SDGs への貢献をめざすプログラムの内容例

南信州観光公社が提供する SDGs 教育旅行プログラム例として、次のテーマを扱ったものが挙げられる。

ア 地域資源を活用した新しい観光スタイルの考察

全国的に有名な観光地とは言えない南信州だが、それ故に俗化されていない文化的側面を持つ「観光資源の原石」が数多く点在している。本プログラムでは、生徒たちが実際にそうした地域の観光資源（例：秘境駅と呼ばれる飯田線の山間の無人駅や、“日本一の焼肉の街”飯田市の焼肉文化など）を訪れ、地元ガイドやキーパーソンから工夫を凝らした魅力発信の取組について説明を受ける。その後、グループ毎のワークショップで地域資源の課題や取り組みのポイントを整理し、新たな観光アイデアの提案などを行い発表する。

図表 3　地域資源を活用した新しい観光スタイルの考察

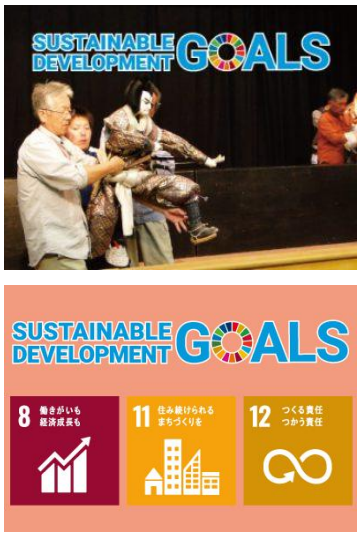
出所：南信州観光公社

これらを通じ、持続可能な観光による雇用創出や地域振興（SDGs ターゲット８．９）、都市と農村の良好なつながり（11.a）、観光開発の影響測定手法の導入（12.b）といった目標達成に資する学びを得られるよう設計されている。

イ 地域の伝統芸能を知り課題について考える

南信州各地に継承されてきた郷土芸能・伝統行事を題材とし、生徒たちが文化財の担い手から直接話を聞き、その保存継承の課題について理解を深めるプログラムである。実際の伝統芸能が行われている現場（例えば大鹿村の大鹿歌舞伎の舞台や、阿南町新野地区の新野の雪祭りの神事など）を訪ね、出演者や保存会メンバーから歴史的背景や現在抱える課題について説明を受け質疑応答を行う。続いてグループ別のワークショップで、文化継承上の課題や住民の取り組みポイントを整理し、新しい提案や自分たちにできる支援策などを議論・発表する。SDGs のターゲット（８．９、11.a、12.b）に沿う学びを提供するものとなっている。

図表　４　地域の伝統芸能を知り課題について考える



出所：南信州観光公社

ウ 地域農業が抱える課題の解決に取り組む活動に学ぶ

南信州の農業分野における現在進行形の取り組み事例に直接触れるプログラムである。少子高齢化や後継者不足、流通・販売の課題など、日本の地域農業が直面する様々な問題に対し、個人・グループ・企業・行政が連携して創意工夫を凝らし挑戦している現場を、生徒たちが訪問する。そこでキーパーソン（農業法人の代表者や６次産業化に取り組む事業者、行政担当者など）から活動内容の説明を受け、質疑応答を通じて課題解決のヒントを学ぶ。続いてワークショップにより、取り組み事例から学んだ課題整理や新たな視点での解決策をグループ発表し合う。

図表　５　地域農業が抱える課題の解決に取り組む活動に学ぶ

出所：南信州観光公社

生徒たちが農業分野における持続可能な生産消費や地域経済循環の重要性に気づき、SDGs 目標８や 12、また地域コミュニティの連携（目標 11）についての理解を深めることができる。

（3）「大平宿」における生活体験プログラム

以上のテーマ別プログラムに加え、これらを組み合わせ、より総合的な学びの機会としたツアーも企画されている。例えば、飯田市郊外にある旧宿場集落「大平宿」での生活体験プログラムがあげられる。

大平宿は、過疎化により集団離村した集落を保存活用した施設で、ここでは生徒が１泊２日で江戸時代さながらの古民家に宿泊し、いろりでの炊事、かまどでの飯炊き、薪風呂の焚き付けといった原初的な生活体験に挑戦する。日常とは 180 度異なる不便さの中で協力して生活することで、仲間との連帯感や現代の生活を見つめ直す視点が養われる。

特に２日目に SDGs プログラム等のオプショナル学習を組み合わせ、地域の農業や文化に関するフィールドワークを実施する。また、事前学習で「集落の維持に必要なもの」を考えさせ、事後学習では「体験した暮らしから得た気づきを今後どう生かすか」を議論させることで、持続可能な地域社会づくりや防災・エネルギー問題への関心を高めることがめざされている。

図表　6　地域農業が抱える課題の解決に取り組む活動に学ぶ

出所：（一社）長野県観光機構

（4）取組の推進体制

南信州観光公社は平成 13 年設立の第三セクター型法人で、下伊那 14 市町村・上伊那 1 村と民間企業が参画している。地域住民をインストラクターや案内人として起用し、行政機関

や教育委員会、観光協会等と連携してプログラムを企画・運営している。また県や市町村とは連携しながら、SDGs 推進企業登録制度や地元農協、消費者団体とも協力し、教育旅行市場のニーズに応じた人材育成（ファシリテーター研修）や全国発信イベント（フォーラム）を開催しており、地域の体験観光インフラと人的資源を共有する広域的な協働体制が構築されている。

4　成果・課題

(1) 成果

教育旅行での学習効果として、参加した生徒らは SDGs や地域課題への理解を深め、対話的な学びを実践できる内容が高く評価されており、「SDGs 教育と新学習指導要領の探究学習を両立できる先進地」として注目されつつある。

また、平成 30 年度推計 3.5 億円の経済効果に加え、令和３年度には 4.8 億円を達成するなど、雇用創出や特産品販売を通じた地域振興に寄与している。特に、南信州地域の教育旅行受入れ実績は堅調であり、約 28 年にわたり全国からの修学旅行団体を継続的に受け入れている。

(2) 課題

今後の課題として、SDGs に係る取組の拡大があげられる。南信州開発公社で提供しているプログラムは約 160 に及ぶが、明確に SDGs を打ち出しているプログラムは３つにとどまっている。これら以外のプログラムについても、内容的には SDGs に即したプログラムが多数存在しており、こうしたプログラムについて SDGs の観点から再整理して訴求することが考えられる。

一方、質の高いプログラム提供には継続的な教材改訂やファシリテーター育成の充実が必要であり、プログラムとしての持続性を確保するための資金や人材の確保が課題である。

関連・参考資料

南信州観光公社
https://www.mstb.jp/
南信州観光公社「SDGs プログラム紹介ページ
https://www.mstb.jp/programs/sdgs/
長野県産業労働部産業政策課：「NAGANO SDGs Business Portal」
https://nagano-sdgs.com/company/148/profile/
長野県：「令和３年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書」
https://www.pref.nagano.lg.jp/minamichi/minamichi-kikaku/shienkin/shienkin/documents/33sdgs.pd
（一社）長野県観光機構「大平宿原生活体験＆オプショナルプログラム」
https://www.naganoken-gakushuryoko.net/pdf/